

第 14 期 第 1 回 豊中市廃棄物減量等推進審議会 議事録

【日 時】	令和 6 年(2024 年)8 月 27 日(火)10 時 00 分から 11 時 30 分まで
【場 所】	豊中市生活情報センターくらしかん 3 階 体験学習室
【出席委員】	小島委員 花嶋委員 石村委員 眞先委員 三谷委員 下村委員 高島委員 山本委員 高井委員 吉田委員 和佐委員 村田委員 (15 名中 12 名出席：有効に成立) ____ は、WEB 参加
【傍 聴 者】	なし
【事 務 局】	糸井、道端、小林、永富、吉村、小坂、渡邊、西岡、田中、内田、鈴木、坂口、三島、 三浦、池田(一)、中村、小田、藤田、池田(真)
【配 付 資 料】	・第 14 期第 1 回豊中市廃棄物減量等推進審議会（WEB 会議）議事次第 ・第 14 期第 1 回豊中市廃棄物減量等推進審議会タイムテーブル ・第 14 期廃棄物減量等推進審議会委員名簿 ・資料 1 一般廃棄物の減量の促進及び適正処理に関する事項等について（諮問） ・資料 2 令和 6 年度（2024 年度）第 14 期豊中市廃棄物減量等推進審議会 審議日程について ・資料 3-1 「第 4 次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について ・資料 3-2 令和 5 年度事業等報告書速報版

●開会宣言

本審議会は情報公開条例に基づき、公開の対象となるが、本日は傍聴希望者なし。

委員 15 名の内、12 名が出席のため過半数に達しており、審議会規則第 6 条により本日の会議は有効に成立している。

●部長あいさつ

●委員紹介

事務局より資料に沿って説明

●会長選出およびあいさつ

審議会規則第 5 条に基づき、委員の互選により小島委員に決定。

●副会長の指名

副会長については、小島会長の指名により花嶋委員に決定。

●諮 問

意見を求める内容

「第 4 次豊中市ごみ減量計画」の進行管理について

・令和 5 年度（2023 年度）事業等報告書について

●審議会の進め方について

事務局より資料に沿って説明

1. 第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について

○会長

それでは、第4次豊中市ごみ減量計画の進行管理について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

＜資料3-1、資料3-2に沿って説明＞

○委員

充電式電池内蔵の小型家電・電池類の定期収集を開始したことが案内されているが、拠点回収の場所をご存じでない方のためにも QR コードを掲載して拠点場所の一覧を確認できるようにしてはどうか。また、昨今では買い物の際のレシートを電子化している店舗も出てきているため、今後そういった取組みについて呼びかけていってはどうか。

○事務局

拠点回収の件につきましては、QR コードを掲載して回収拠点が一覧でわかるよう対応する。レシートの電子化については、今後の動向も踏まえて対応を検討していく。

○委員

事業系ごみ量のグラフについて事業者数も把握できれば、よりわかりやすい資料なるかと思うので、次回から掲載してもらえないか。

○事務局

事業者数というのは、豊中市全体の事業者数か、許可業者としての事業者数どちらか。

○委員

どちらも記載していただくのが望ましい。資料のグラフと連動した数値という意味では、市内の全事業者数があればよいし、事業者がきちんと許可業者にごみを出しているかどうかを確認するという意味では許可業者数もあればよい。

○事務局

一般廃棄物を収集している許可業者数及び、その許可業者と契約している事業者数については把握しており、豊中市全体の事業者数に関しては、5年に1度の経済センサスにて、令和3年度までの数値は把握している。次回以降、その数値をどのように資料に反映させるかなどについては、今後検討していきたい。

○委員

充電式電池内蔵の小型家電・電池類の定期収集を開始したことによって、今後火災発生件数が減少したのかどうかをわかるように、成果の見える化を進めていただきたい。

○事務局

令和 5 年度におけるグリーンランドにて発生した発火件数については、定期収集を開始した 10 月以降、微減となっているが、令和 6 年度の 4 月から 7 月と前年度の 4 月から 7 月を比べると微増となっており、今後の成果報告や周知啓発の手法について検討し、分別の徹底を広めたい。

○委員

今回の事業等報告書（速報版）は、どのような人に向けた資料なのか、また、フードドライブについてヤマト運輸と連携したことによってどのような効果があったのか教えていただきたい。

○事務局

事業等報告書（速報版）については、市のホームページにて公開し、市民及び事業所の皆様からのご意見を広く募集させていただくもの。フードドライブについては、これまで市の職員が月に 1 回、食料品の回収・運搬を担っていたが、ヤマト運輸との連携により、回収・運搬の頻度も週に 1 回となり、より迅速かつ効率的に食料品を届けることが可能となった。

○委員

家庭系ごみについて、令和 4 年度に計画改定によって計画値が増加しており、事業系ごみについては計画値が減少しているが、この理由はなにか。

○事務局

計画改定時について最も考慮したところが新型コロナによる影響であるが、国や府のデータ等も勘案し、令和 4 年度以降は個人消費や人々の活動がある程度戻るであろうことを想定した。ただし事業系ごみについては、市民アンケートを実施した結果、特に外食産業の事業活動が通常時に戻るまでには、期間を要するであろうと想定し改定を行ったもの。

2.その他

○会長

それでは、その他報告について、事務局から説明をお願いする。

○事務局

＜ペットボトル水平リサイクルに関する協定・廃食油の SAF 化に関する協定の締結について説明＞

○会長

全般を通して、改めてご意見がなければ、本日の審議会はこれにて閉会とする。次回は 12 月頃を予定しているので、よろしくお願いします。

3.閉会

以上